

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0490200045		
法人名	現世物産興行株式会社		
事業所名	あいわグループホーム		
所在地 (電話番号)	石巻市渡波字新沼178 (電 話) 0225-24-5065		
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成 20 年 6 月 26 日		

## 【情報提供票より】(平成20年 6月 26日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 8 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	13 人, 非常勤 4 人, 常勤換算

### (2) 建物概要

建物形態	併設/単独○	○新築/改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~43,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	○有(80,000~86,000) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) ○ 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4) 利用者の概要( 6月4日 現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	6 名	要介護2	5 名			
要介護3	6 名	要介護4	1 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	83 歳	最低	61 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 清芳会 ・ 佐藤内科医院 ・ 横山歯科医院
---------	------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設して10ヶ月になる。住宅地に囲まれ、近くには渡波海水浴場があり、とても環境の良いところにあった。会長の阿部吉治氏は、両親を介護され、「人のために尽くすような事業」とお母様の遺言で開設したと話されていた。第一に入居者、第二に職員を大事に考え、博愛の精神の「あい」と和を持って尊しの「わ」を取り「あいわグループホーム」と名づけた。開設以来職員の人員体制が落ち着かず、管理者も決まっていなかった。介護支援専門員が兼務し、それをベテランの看護師が支え、職員の育成にあたり、やっと入居者も落ちついたと話されていた。取組状況、改善点など課題は多いが、早い段階に管理者を決めて人員体制を整え、入居者に安心した生活環境作りをし、音楽療法として導入したカラオケで元気な歌声が響き渡り、共に支え合えるホーム作りを期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  平成19年8月開設にあたり、今回が初めての外部評価である。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ユニット毎に自己評価票を渡し、職員全員に記入してもらい、介護支援専門員がまとめ仕上げた。自己評価作成に当たり、言葉、表現の難しさを感じながらもケアの振り返りとなり気づきの部分が多く入居者に対する意識付けができた。また地域との関わりの大切さや運営推進会議の必要性を感じた。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)  開設以来3回開催している。町内会長、区長、民生委員、地域包括支援センター管理者の出席で開催している。消防訓練の実施にむけた協力要請、年間行事予定の日程調整、これまでにあったグループホームの火災事例について話合われている。今後は2ヶ月に1回のペースで入居者、家族を交え、要望、意見を聞き、より良いサービス向上に取り組もうとしている。
	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)  経営者の知り合いが多く入居されているのでこれ迄に意見、苦情などはないが映画の好きな入居者から要望があり、今後、家族、知人にビデオ鑑賞等の呼びかけをしたい。意見箱を設置するなど対策を講じ家族の意見がより反映できるようにしている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  町内会に加入している。散歩、買い物時に挨拶を交わすことや小学校との交流、防火訓練終了後にバーベキュー大会をする等交流の場を広げている。今後、町内会の広場が使用不可となる為、夏祭りなど町内の行事は事業所の駐車場を提供するとのことで地域の担当を交え行事の日程調整を行い実施するよう取り組まれていた。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者が主人公」を理念として掲げ、さらに7つの約束として入居者、職員間、地域の連携をうたった事業所独自の理念が作られていた。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設して10ヶ月であり、現場の実務経験のない職員が多いことから介護の基本を指導することに追われている。また、職員の人員体制が落ち着かず理念の共有、実践の指導までにはいかず、今後研修の機会をもてるよう取り組んでいただきたい。	○	職員全員が理念の書いてある携帯カードを持参し共有しようとしているが、理念を理解するまでに至っていない。日常の業務の基本を指導し、職員に理念とは、そしてそれを理解していただけるよう、研修の機会を持ち、指導し、共有するよう働きかけていただきたい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入している。散歩、買物時に挨拶を交わすことや小学校との交流、防火訓練終了後にバーベキュー大会をする等交流の場を広げている。今後は町内の広場が使用不可となる為、夏祭り等事業所の駐車場を提供するとのことで地域の担当者を交え日程調整を行い実施するよう取り組まれていた。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に渡し、職員に記入してもらい、それらを計画作成担当者がまとめ仕上げる。評価作成にあたり言葉、表現の難しさを感じながらもケアの振り返りとなり、気づきの部分が多く入居者に対する意識付けが出てきた。また地域性の大切さを知ると同時に運営推進会議の意義を知る事が出来た。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開設以来3回開催している。町内会長、区長、民生委員、地域包括支援センター管理者の出席で開催している。消防訓練の実施に向けた協力要請、年間行事予定の日程調整、これまでにあったグループホームの火災について話し合われている。今後は2ヶ月に1回のペースで入居者、家族を交え要望、意見を聞きより良いサービス向上に取り組もうとしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	通常の業務に関する相談事で情報交換したり、事業所からも地域包括ケア会議に出席しているが、事業所と市町村との連携しての事業の検討もお願いしたい。	○	事業所自体が住宅地にあり、開設して日が浅い事もあるので地域に認知症ケアを理解し、支えて頂けるよう、行政側から積極的に地域に出向き、研修、説明の機会を設けて、認知症になっても地域で安心した生活が送れるよう支援していただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1～2回ほど家族の面会があり、そのときに日頃の様子や請求明細書、現金預り金の明細を伝えている。連絡のつかない方や状態に変化があったときは必要に応じ電話連絡で説明している。今後預り金については承認を得る方法など考えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	経営者の知り合いが多く入居されているのでこれまでに意見、苦情等はないが映画の好きな利用者より要望があり、今後、家族や知人等に声をかけてビデオ鑑賞等の呼びかけをしたい。意見箱を設置するなど対策を講じて家族の意見がより反映できるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の対応により、入居者の不穏が見られたり、居室にこもりリビングで過ごされる入居者が少なかったが、職員の入れ替えにより対応の改善が見られ利用者も落ち着いて過ごされるようになった。今後、この人員体制を維持し、信頼関係を築き穏やかな生活が送れるよう配慮していただきたい。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開所して10ヶ月、職員の入れ替えが多く、新人研修をその都度実施している。これまでに記録の仕方、理念、認知症の対応について介護支援専門委員、看護師が中心となり社内研修をした。今後月に1度定期的に研修の機会を設けていくよう取り組みたいとしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	すでに定員に達している入居者に対して職員の多くが認知症ケアの経験が浅い。同業者との交流を出来るだけ多く持つ機会を作りより良い対応について学んでいただきたい。	○	施設運営をするにあたり、情報源があまりに少ないと思われる。同業者と情報交換したり連携をとることで学ぶ機会が多く参考になると思われる。今後宮城県グループホーム連絡協議会に加入し研修に参加したり、職員の交換研修をする等、認知症ケアに携わるものとして検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅を訪問し、家族、本人の同意を得たり、サービス業者からの情報提供を参考にしている。これまでの本人の生活を尊重し馴染みの家具等を持ち込み安心して過ごせるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居してから著しく状態改善があり職員と入居者が共に喜びあっている。調理時には味付けについて具体的なアドバイスを頂いたり、職員の体をさすりながら労いの言葉をかけてくれたり、入居者同志お互いの名前と顔が一致なくても自然に会話が弾んだり支えあう関係が出来ている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりコミュニケーションを多くとり思いを引き出すよう工夫している。友人の所へ行こうとグループホームを抜け出した入居者を職員が後を追いかけてうかがいながらついていくと最終目的地に迷いながらも到着し、帰りは一緒にグループホームに戻り安堵したこともあった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	実地調査に介護支援専門員と看護師が出向き、アセスメントをし、介護計画書を作成している。入居者、家族の意見が計画書に十分に反映するまでに至っていないが、情報をできるだけ引き出し作成していきたい。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者一人ひとりの時期にあわせて見直し、評価し作成している。状態変化時は職員間で話し合いを持ち対応しているがまだ十分に計画書に反映するまでに至っていない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の要望により、その都度通院、介助、外出の対応をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご家族、本人に受診するにあたり、かかりつけ医か協力医にするかの選択の確認をとっている。10名が協力医、3名がかかりつけ医を希望されている。通院は看護師が対応し家族の同行時は病院で待ち合わせとしている。必要に応じて、緊急時の対応や総合病院への紹介もして頂いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に 家族に重度化した場合の対応について説明し、意思確認書を頂いている。本人、家族の思い、意向を伺い、職員が把握できるよう、記録等に残すことを検討している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時に本人、家族より伺った呼び方をしている。職員は言葉づかい、耳元で静かに話すよう注意し対応している。記録等は本人以外インシヤル、入居者の目の触れないところで記録をするよう配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、食事の時間は特に決めず、一人ひとりのペースに応じて対応している。お部屋で食事をとられる方、ゆっくり時間をかけて食べる方、早く食事を済ませ後片付けをしてしまう方など思い思いの生活をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	茶碗、箸、湯飲みは持ち込んだものを使用している。メニューは入居者から食べたいものを聞いて職員が中心となり作成している。誕生日の人には好きなものを聞いて食べていただく。また、広告を見たり、冷蔵庫を見てメニューを決めることもある。入居者と一緒に調理、味付け、盛り付けをして皆でいただいている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	2日に1回のペースで午後に入浴をしていただく。重度の方にも対応が出来るようなタイプと一般浴槽とそれぞれのユニットに設置されており。着脱室にはおむつ交換用に簡易ベットが置かれていた。希望者には入浴剤を使用することもある。		
sakusei ,					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗拭き、盛り付け、お絞りたたみ、掃除、挨拶の声かけ、縫い物、草取りと役割があり、一人一人が出来る事を職員が支援しながら行っている。訪問時は男性の方が器用に食器拭きをされていた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、花見、衣類の買い物、近くのコンビニにアイスクリームを食べに行ったり、10円饅頭を買いに出かけたり戸外に出かける機会を多く設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアを理解している。日中は施錠せず、玄関の出入りはセンサーが作動し外部からの侵入もわかるようになっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	開設してから地域、家族、消防署の協力を得て1回実施しているが夜間想定まではできなかった。今回の訓練を見直し今後定期的な実施の予定であり、備蓄等も検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が献立を作成し、調理師3級の資格をもっている看護師が量、栄養バランス、水分、塩分、食事制限者対応の指導をしている。入居時より体重が増えている入居者もおり定期的な体重測定、水分チェックも行っている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆったりとした木造住宅で玄関には季節の花を飾り、地域のボランティアさんが作られた折り紙の作品が飾られていた。食堂兼リビングにはソファが置かれ、その横には小上がりの和室があり懐かしい和ダンスが置かれていた。廊下のセミプライベート空間に椅子とテーブルが置かれていた。天井の吹き抜けから自然の採光が入り、入居者の生活に優しさが感じられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の広さにより多少価格が異なり、収納のスペースも充分にあり、すっきりと整頓されていた。入居者により、仏壇を持ち込まれたり、ベッドを置かず布団で休まれる方もいる。皆様思い思いの居室作りをされており、居心地の良さを感じた。		